



夏休み、どの本よもうかな？（5、6年生）

わたしのカレーな夏休み

たにぐちまさみ ちょ こう め が こうだんしゃ
谷口雅美／著 KOUME／画 講談社 （J 913／タ）

けいさつけん
警察犬のように鼻のいいハルカは、おいしいものが大好きな小学5年生です。カレー屋を営む叔父さんに弟子入りしようと、夏休みを使い、大阪へ行くことになりました。ハルカは、商店街で知り合った少年たちとグルメイベントに参加するため、お店の新メニューを考えますが…。



小さなバイキングビッケ

ルーネル・ヨンソン／作 エーヴェット・カールソン／絵
いしわたりとしやす やく ひょうろんしゃ
石渡利康／訳 評論社 （J 949／ヨ）

今から 1000 年ほど前、スウェーデンやノルウェーの海岸には、「バイキング」とよばれるかいぞく海賊がすんでいました。バイキングの族長の息子ビッケは、力ではなく、知恵を絞って作戦を立て、仲間のバイキングを助けました。



氷石

くぼた かおり さく いいのかずよし が しゅつばん
久保田香里／作 飯野和好／画 くもん出版 （J 913／ク）

ほうそう
疱瘡という病が流行する奈良の都で、少年千広は、ただの小石を「病に効く護符（お守り）」と偽って売っていました。しかし、宿奈という少女は、その石を偽物だと知っても「氷石（水晶）みたい」と大切にします。それを見た千広は…。



おにとあんころもち

にしみ かわ
西三河の昔話

おざわとしお／再話 くのあいこ／再話 はんだつし
福音館書店 （E みんわ）

ある日、おかあが、たろうのすきなあんころもちをつくってくれた。すると、あんころもちがひとつ、ころころ一つと、どこまでもにげていったげな。たろうがもちをおいにかけて、穴に飛び込むと…。



聞かせて、おじいちゃん

げん ばく かた ベ もり まさただお けつ い
原爆の語り部・森政忠雄さんの決意

よこた あきこ ちょ やまだ あきら かんしゅう こくどしや
横田明子／著 山田朗／監修 国土社 （J 319／ヨ）

ゆき こ
友紀子は、夏休みに広島原爆について調べることになりました。原爆を体験したおじいちゃんに話をしてほしいと頼んだところ、おじいちゃんは言葉をにごし、うつむいてしまいました。しばらくして、遠くをながめるようにたんたんと語りはじめます。



宇宙食になったサバ缶

こさか やすゆき ちょ べっしよしこ ちょ はやかわ よし お そうが さしき
小坂康之／著 別司芳子／著 早川世詩男／装画・挿絵
しょうがくかん
小学館 （J 667／コ）

地球から遠い無重力の宇宙。そこで食べられる宇宙食の開発は、とても大変です。賞味期限は長く、液体は飛び散らないようにしないとダメ。福井県の高校生たちはどんな工夫をして「宇宙サバ缶」を作ったのでしょうか？



「植物」をやめた植物たち

すえつぐけんじ ぶん しゃしん ふくいんかんしよてん
末次健司／文・写真 福音館書店 （J 471／ス）

植物のほとんどは、体内の葉緑素で光合成をおこない生きています。ところが、光合成をやめ、他の生物から栄養を得ているのが「菌従属栄養植物」です。不思議な姿や驚きの生態が、美しい写真とイラストで紹介されています。



和太郎さんと牛（『花のき村と盗人たち』より）

にい みなんきち さく ながの え こみねしよてん
新美南吉／作 長野ヒデ子／絵 小峰書店 （J 913／二）

和太郎さんの牛は、よい牛です。お酒が好きな和太郎さんがよっぱらうと、いつも家までつれ帰ってくれるからです。ある日、和太郎さんは、日ごろのお礼にと、牛にお酒を飲ませることにしました。ところが…。

